2024 年度「ＩＣで学んで」

3 年 ICB 組

私は ICB コースで様々なプログラムを経験し、自分の可能性を広げ、人として大きく成長できた 3 年間を過ごすことができました。

1・2 年生までにはリッターレス（ごみゼロ）キャンペーンでプラスチックゴミ廃棄に関する海外と日本の現状の比較をし、世界的な問題に目を向け、自分が思っているよりも世界は危機的な状況にあることを知りました。そして、スプリングキャンプでは友情を深めるとともに、英語を学ぶと同時に人と関わりコミュニケーションをとる大切さを改めて感じることができました。また、ニュージーランドに 5 週間留学したことで文化の違いを実際に肌で感じ、日本の良さや悪さを客観的に考えることもできると同時に、自分の英語の運用能力の低さに挫折しかけたり、このままではいられないと英語学習に再び火をつけるきっかけになりました。この留学は国際人になる準備の第一歩となり、楽しく、苦しくもあった、今までの人生における大きな経験となっています。

そして、3 年生の 6 月にこれらのプログラムの集大成と言える関西高校模擬国連大会(MUN)にインドネシア共和国の代表、またブロックリーダーとして参加しました。今回の MUN では「汚染と廃棄物の危機」を議題にプラスチックゴミ、電子機器、ファストファッションによる世界のゴミ問題について議論しました。私は普段からゴミの分別やポイ捨てをしないように徹底していましたが、世界全体で見てみると比較的ゴミ問題が大きな社会問題として取り上げられていない日本では、廃棄物が環境や人体に与える悪影響を深く考えることはありませんでした。今回の MUN では、廃棄物は生態系に悪影響を及ぼし地球温暖化を促進させる一つの原因となり、また処理する際には人体にとって有毒な物質を発生させるなど様々な点で有害であることを学びました。日本は比較的安全で、SDGs で掲げられている社会問題も世界に対して支援者側になることが多く、学校生活や日常生活で貧困や廃棄物などの深刻さや世界の危機的状況に目を向ける機会が少ないため、日本政府は国民の社会問題に対する理解度を高め、解決に尽力していかなければならないと感じました。しかし、今回インドネシアの代表として解決策をブロックの人たちとただ案を出すだけではなく、金銭面や資源面についても重点を置き考え議論したことで、たとえ全世界で問題とされている社会問題でも国際協力を簡単に求めることは出来ず、単純な解決策で解決するようなものではないのだと身をもって理解しました。3 年次に MUN に参加することで世界の危機的状況を知り、自分もそんな世界の一員であることを自覚できる、IC コースで一番成長ができるプログラムだと思います。

このように IC では英語を中心に身近な出来事や問題はもちろん、国際問題にも触れることができるので、普段は考えもしないようなことや他人事のように考えてしまっている社会問題について調べ、それらに対し自分もこの社会の一員であることを自覚し、詳細を自分から調べたり、解決に貢献したいと考えるようになりました。

ICB コースで様々なプログラムを経験し、国際問題について客観的にも主観的にも考えることができました。大学では ICB コースでの 3 年間の経験を活かし、それらの解決に少しでも貢献できるよう成長していきます。